

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 47 号

令和4年3月26日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内



切実な願い

秋田市退職校長会 副会長 高田 均

桜の下で宴会をし、大輪の花火に歓声を上げ、紅葉を求め渋滞の中をドライブ、そして年末・年始に家族全員が集合する。そんなごく当たり前と感じていた時間がとても大切に思えるこの頃である。

先日、姪っ子がLINEで動画を送ってきた。森山良子の「Ale Ale Ale (あれ あれ あれ)」という歌の動画だ。

あの人の名前が出てこない、あの店の名前が出てこない、好きだったスターの名前が出てこない、忘れ物を探すうち探していたものを忘れた、等々。まさに今の自分であると思わず苦笑した。

(興味がある方は是非ご視聴を)

かつて、高校の同窓会で、医療に関わる仕事をしている友人が、昔を思い出して語り合うこのような機会は脳に十分刺激を与えることになると言っていた。

昔のことを思い出したり、子どもの頃の嬉しかったことを誰かに話したりすることは、精神の安定が期待でき、長く続けることで認知機能が改善することも明らかになり、日本でも「回想法」として認知症患者のリハビリテーションに利用されるようになったという。昔のことを思い出す、つまり記憶の出し入れをすればするほど、脳は活性化するということなのだろうか。

一日も早く、世の中が平穏になり、多くの仲間と集い思い出を語り合う機会が増え、我が脳も活性化してほしいと願う日々である。



11月6日 陶芸を楽しむ研修会

11月1日は「あきた教育の日」 秋田の子どもの今を語り未来を語る日

コロナ禍における 学校の現状

〆 一日一移動〆 を日課に

明徳小学校

校長 齊 藤 哲 仁

GIGAスクール構想、一人一台端末配付、オンライン授業等々、コロナ禍の長期化に伴い、ICT活用の必要性が一気に高まりました。実際に学校現場における様々な配備の加速度には圧倒されました。昨年度末は冷房の取付に加え、各種配線工事、タブレットと高速通信環境の整備など、多種多様な業者が入れ替わり立ち代わり作業を進めていました。着々とハード面が整う一方で、ソフト面に関わる不安が課題と考えていました。本校はほぼ単級の全校七学級です。校舎の両端に一学年一学級ずつの配置が三階まで続きます。学級数は減っても、校舎配置はずっと変わらず、他学年がどのような活動をしているのか、互いに把握しづらいのが現状です。感染症対策には利点ばかりですが、研究推進をはじめとする共通実践や学校行事への向き合い方に温度差を感じたこともありました。ICTを積極的に活用する学級と、そうではない学級の格差が生じては、子どもたちに申し訳ないと思いました。そこで秋田市課題研究推進校に手を挙げ、「ICTを活用した教育の推進」に全校体制で取り組むことにしました。新年度のあわただしさに紛れて、ICT活

用について試行錯誤も始まりました。指導主事主導の実技研修会では、ネットにつながるまでの時間が長く、予定していた内容の半分も消化できませんでした。一斉に大人数がアクセスすると致し方ないのかと落胆しました。ネット接続に苛立ち、我慢の限界に至った子どもがタブレットを叩き付けてしまうほどでした。原因は今までのネットシステムが最新機器の性能を妨げていたことでした。トラブルが解消されると、正にサクサクとつながり、担任のやる気スイッチがようやく入りました。授業改善に結び付く活用の挑戦が繰り返し展開されています。子どもたちは想定外の遙か先を進むスピードで順応します。今、学校では実践や経験を積み重ね、新たな学習スタイルの確立を目指して奮闘中です。

感染症対策を徹底してできる限り：

豊岩中学校

校長 渡 辺 政 文

今年度、赴任した本校において、早々に大きな決断を迫られることになりました。それは5月に行う修学旅行に関するものでした。既に関東方面の修学旅行を東北方面に変更していました。各県での感染者が増加傾向にあったため、その状況を見ながらの判断は悩ましいものでした。そこで臨時の修学旅行委員会を行い目的を秋田県内に変更する原案をつくりました。そして、校長会からの情報提供やご助言を参考に、「マスク及びフェイスマスク着用やバス乗降の際の全身消毒」などをはじめとする細案を、短時間で完成させました。保護者説明会では徹底した感染症対策の説明を丁寧に行うことで、全員から同

意を得ることができました。しかし、その後すぐに新型コロナウイルスに関する県独自の感染警戒レベルが秋田市で「4」に引き上げられました。再び、非常に悩ましい日々が続きましたが、実施数日前の新聞記事「感染拡大、まん延地域を除き、目的地の状況を見て実施する方向」(秋田市教育委員会)が、私の判断を後押ししてくれました。旅行は、大成功でした。諸活動に生き生きと笑顔で臨む子どもたちの姿を見て、心の底から実施して良かったと思いました。秋田市小・中学校長会と教育委員会には、今でも心から感謝しております。

このときから、本校の教育活動実施の基本方針は、「状況をみて感染対策を徹底して、子どものためにできる限り実施する」としました。本校での感染症対策による業務は、教職員で分担し、検温カードや手指消毒、生徒の触れる場所の消毒作業、換気などを徹底して行っています。

また本校では、「夢や志を育むキャリア教育」を推進しています。社会で活躍する人々とのふれあいによる学校と社会をつなぐ教育を重視しており、高い教育効果を実感しております。したがって、キャリア教育に関する行事のみならず教育活動の際は、実施か中止かの判断を迫られることが多々あります。オミクロン株の出現と急激なまん延により、これからのいやこれからはもっと悩ましい日々が続くと思いますが、基本方針は変わりません。新型コロナウイルスを今まで以上に正しく恐れながら、全教職員の共通理解のもとチーム豊岩で教育活動を推進したいとの思いを強くしている今日この頃です。

交流のとびら

趣味に生きる

羽 深 進



秋大美研では、彫塑研究室に所属して、彫刻の基礎を学びました。それ以来、五〇年以上に渡って彫刻作品の制作に親しんでいます。趣味に生きるとは言いますが、自分ながらよくこれまで彫刻すること続けてこれたな、と感じています。

私は現在、秋田県彫刻連盟と秋田美術作家協会に会員として所属し、そこが年二回の作品発表の場となっています。この二つの美術団体で活躍する作家仲間の存在が、私の制作意欲の維持や高揚につながっています。

ここで、最近の私なりの制作プロセスを紹介いたします。①題材（制作テーマ）さがし。②素描（正面から、両側面から、背面からモデルをデッサン）。③粘土による小品作り。④小品をもとにした木彫制作。⑤彩色による仕上げ。

こうして制作した木彫作品のタイトルは次のとおりです。「奏でる」「くもの糸の世界」「○○○、とったよー」「高い、高い」「ティール・ウインド・ドレス」風を感じて「」などなどです。作品は、御所野にある自宅のアトリエに保管しています。

加えて、高さ一八〇センチメートル、直接七〇センチメートルのケヤキの太木を彫刻して生まれた「竜の舞・滝の恵み」は、広面地区にある太平山三吉神社に奉納（寄贈）しました。神社にお立ち寄りの際には、どうぞご高覧ください。

（平成二十二年三月退職）

あれから十年

松山 郁子



諸々の課題に追われ、そこに全神経を注ぎ走り続けていた現職の頃からみると、退職後の十年は神経を分散させながら緩やかに時を刻んできたように思う。

還暦を迎え、中学校時代の恩師を囲み、久しぶりに同期が集まった会で先生曰く、「十五歳の夢多き頃のように、還暦を機に新しいことを始めてみなさい。十年も続ければ、何とかものになるはずだから。」

師のおっしゃることだからと、退職してから始めたことがある。一つは趣味らしいものを持ちたいと、音楽教室の扉を叩き、オカリナの方の演奏にチャレンジした。もう一つは先輩の方の勧められ、更生保護の世界に足を踏み入れ、保護司を拝命した。どちらも全く何もわからない一年生からのスタートだった。以来、今年でもう十年近くになる。義務教育の九年間をとうに経過したことになる。子どもたちのこの間の成長にはめざましいものがある。しかし、私にとっては、果たしてもものになったかと自問してみるに、いやいやまだまだである。始めてから十年を前にして、やっ

と何かがわかってきた。何かを掴みかけてきたという思いである。やればやるほど課題が見つかり、もつともつという思いに駆られる。年を重ねた分ゆくりではあるが、現職時代に蓄積したものを引き出しつつ、人生に潤いを持たせながら、社会とのつながりも求めてもう少しがんばってみようと思う。

（平成二十四年三月退職）

近況報告

阿部 義教



退職してから、早十年が経とうとしていることに気づかされる今日この頃です。「六十代は特に時間の経過が早いなあ。」と感じています。退職後の五年間は秋田市の嘱託として二か所で勤務し、今は週三日の仕事をしています。緊張感や集中力を伴いながら仕事をしてきたことが十年間を早く感じさせてくれるのでしよう。

これからは、春は畑づくり、夏は草刈り、秋は古ぼけた実家の整理、冬は除雪が主な仕事になります。緊張感が減る分、体力維持とボケ防止に力を注がなければならないと思っています。

趣味と言えるほどではありませんが、以前から野菜と花づくりに取り組んでいます。ナス・トマト・キュウリ・インゲン等は種から育てます。芽が出るまで、そして市販の苗の大きさに生長するまでは大分時間がかかりますが外気温が上がって暖かくなってくると、どんどん生長していきます。ビックリするほどの生命力です。同時に雑草の生長も早いので除草は大変ですが、作物の生育を楽しみに思い頑張ることができます。収穫期になり畑に行くとトマトをその場で食べると新鮮な美味しさを堪能でき、格別です。

そして今は、連作にならないように狭い畑の何処に何の野菜を植えるか色々考えるのも春に向かっの楽しみです。また、花も色々植えて楽しんでいますが特に菊とユリを多種類植え、増やしていくことが今の最大の目標となっています。

（平成二十五年三月退職）



日本の未来をつくる仕事

三 條 正 弘

定年退職から七年、保育の現場におります。月曜から金曜までフルタイムのお仕事は、0歳から6歳までの子どもたちの成長に向き合うことです。小学校の校長先生を経験された皆さんには「保育指針」は常識かもしれませんが、学習指導要領の温床で育ってきた自分にとっては、まさにそれまでの世界観を一八〇度転換させられるような大々変化した。それでも、お給料をいただいている以上「そんなことも知らないのか」と職員に言われたくはない園長です。

保育室をのぞいてみます。0歳児のお部屋に入ると一斉にこちらを見つめて…一瞬あとには大泣きの大合唱。人見知りの「0歳児」たちは手強いです。

おままごとの手料理を手にとってご馳走してくれる「1歳児」たち。おませさんで、園長のネクタイチェックにも余念がありません。

2歳児から満3歳児になると、覚え立ての言葉を駆使してごっこ遊びのバリエーションが広がります。ここまでの子どもたちのことを、業界用語では「未満児」と言います。（ここから上の子どもたちは「以上児」です。）脳科学の研究者によれば、未満児の頃に感受性の能力が人生のピークを過ぎ、あとは徐々に減少に転じていくとのこと。それを踏まえ、保育士たちは遊びの中で乳児・幼児たち一人一人のいろいろな成長の素を、この時とばかり刺激しています。

コロナ禍、保育士たちのマスクの中には笑

顔いっぱい表情が隠れています。保育が世間の働く女性たちを支え、我が国の未来をつくる仕事であることを実感させられる毎日です。

（平成二十七年三月退職）

くいくつになってもわくわく 楽しい研修会情報です!!

研修担当 鈴木 巧

コロナ禍の影響により、残念ながら「県産酒飲み比べ」などの研修会は中止となりましたが、「陶芸体験」「アトリオンコンサート」などいくつかの研修会が開催されました。今回は、表紙を飾る写真にある「陶芸体験」の様子についてお伝えいたします。

雄和椿川にある「いやしろち」代表の陶芸家、秋山章子さん指導のもと、参加者は、ぐい飲み・小鉢・小皿のほか、ひれ酒用蓋付酒器まで、思い思いの発想で作品づくりに熱中、ろくろを使わない「手びねり」で形と厚さを整えます。二色の粘土を編み込む市松模様の作品づくりにも挑戦しました。

指先の力加減や押さえ方にコツがあるようで、粘土同士にくっつき具合が甘いと焼き上がり後にひび割れてしまうことも。好みの色を指定し、焼き上げてもらいます。自然味あふれる優しい色合いが特徴の手作り陶器、手に持った瞬間、思わず笑みがこぼれます。

参加者の多くが陶芸初体験の皆さんでしたが、「自分でつくり、使ってみたい」という思いが詰まった酒器や食器の完成に、本当に楽しかったと大満足の陶芸体験となりました。

これで呑む一杯、これで味わう肴は、なん

ともたまらないおいしさでしょうね。

◇来年度も、楽しい研修会をご紹介、ご案内していきますので、よろしくお願いいたします。

事務局から

○令和四年度年間行事予定

・秋田市退職校長会

監査 令和4年4月14日（木）
理事会 4月23日（土）

※新型コロナウイルス感染状況を考慮し、総会は中止し理事会のみの開催とします。
現職・退職校長会教育懇談会
11月12日（土）

※新型コロナウイルス感染状況によって、延期・中止になる場合があります。

謹んでお悔やみ申し上げます

令和4年3月1日現在（敬称略）

・三浦 進	令和3年3月29日ご逝去
・衣笠 昭生	令和3年3月30日ご逝去
・加藤 英二	令和3年4月14日ご逝去
・安藤 貞治	令和3年7月9日ご逝去
・秋田 善一	令和3年8月21日ご逝去
・加藤豪之助	令和3年9月25日ご逝去
・松田 實	令和3年9月25日ご逝去
・高橋 勇	令和3年10月30日ご逝去
・三浦 勝博	令和3年11月8日ご逝去
・佐藤 芳昭	令和3年12月10日ご逝去
・梅津 嘉弘	令和4年1月28日ご逝去
・林 洋一	令和4年2月13日ご逝去